

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目でコアラⅡ

↑ 取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念を掲げ、職員やご家族、地域の皆様に分かりやすく明示している。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を基に自力目標を設定し、その実現に向けて日々努力をしている。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	面会や運営推進会議などで、理念を理解して頂けるように努力している。		
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩の時に、隣近所の人や小学校の人と気軽に声を掛け合ったりしている。畑で採れた果物を頂いたりしている。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の一員として本年度より自治会に入会し情報交換に努めている。		ふれあい・いきいきサロンの参加。行政センター主催の講座に参加。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	今年度より自治会に入会したのを機に地域活動に参加する。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を全職員で行い、サービスの質の向上に努めている。また、評価にて指摘された事柄は早急に対処し、改善にむけて努力している。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度実施し、利用者や家族と取り組み状況等を話し合い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	計画作成担当者が行政との連携をはかっている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	制度のあることは知っているが、必要な利用者がいない為、活用していない。	○	制度について知ってはいるが勉強不足な面があると思われるので職員皆で学んでいきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止関連法の書類等を使用し、会議や日々の生活の中で管理者及び職員で話し合いを持っている。	○	研修等に参加し知識を増やしていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者や家族から不安・疑問・意見を尋ね、十分な説明を行い理解して頂けるように努力している。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見、不満、苦情を引き出せるような関わり方をしている。また、意見などを聞いた時は、速やかに対処し運営に活かしている。	苦情処理・改善点を記載した書類を作成。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	コアⅡ新聞を発行したり、家族の面会時や電話等で利用者の健康状態を報告している。お預り金は請求書送付時に領収書を貼布した、ご利用明細書を送付している。年1回のクリスマス会では職員全員の自己紹介をしている。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見・不満・苦情を管理者や職員に直接話して頂けるように常日頃から信頼関係を築く努力をしている。家族からの意見は謙虚に受け止め運営に反映している。よく来所される家族には連絡ノートを作り、意見・情報交換をしている。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常日頃から話し合い、会議にて方向性を決め全職員で取り組んでいる。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者の急変時や、家族対応などは必要な時間帯に職員の確保は出来ており、必ず職員間での話し合いや調整を行っている。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動や離職を必要最小限におさえる努力をしている。	○ 離職時の引継ぎを徹底し、利用者に迷惑や心配をかけないよう配慮する。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	会議時に、勉強会を開いたり余裕がない勤務だが、調整して研修に参加している。研修参加者は会議時に内容を報告し、共有している。	○ 研修内容を職員間で共有し、正しい知識を技術に変えられるよう、取り組んでいきたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	レベルアップ研修に参加したり、受け入れを通じて他事業者と交流し、質の向上に努めている。介護支援専門員研修などで、他のGHのケアマネと交流する機会を持つ。	○ 会社及び個人共にネットワークを広げ、新しい知識を増し、向上させていきたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	休憩時に何でも話し合える環境作りに努力している。また、年二回の親睦会に全職員が参加し、ストレス発散している。	○ まずは、自分を理解する事により他人が見えてくると思う。自分を知り他人を理解できるように努めたい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	各自目標を持ち勤務している。	○ わからないままにせず、職員間で話し合い理解をし向上していきたい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	面談にてじっくり傾聴している。施設内を見学して頂く。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	面談にてじっくり傾聴している。施設内を見学して頂く。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談にてじっくり傾聴し、他施設や他のサービス利用についても説明をすることもある。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者が不安にならないように担当職員が付き、居室は家族と相談して、ご自宅で使用していた馴染みのあるタンスや写真を飾るなど工夫している。	○	二泊三日の体験入居をしていただき雰囲気を感じて頂く。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者は人生の先輩であるという事を全職員が意識して様々な事を教えて頂きながらお互いが協働し和やかな生活が出来るようにしている。	○	利用者と職員が同じ方向性を持ち、共感していきたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	年二回の家族交流に参加して頂き、共に喜びの場面を共有していただいている。家族との連絡ノートを作っている。	○	常日頃から話していただける環境、信頼関係を築く。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会の時に、家族と職員が話し合いをして、利用者に対してのよりよい関係作りをしている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人や家族から馴染みのある場所を聞き入れ調整して出掛けている。また、友人等の面会も気軽に出来るように配慮している。	○	地域活動に参加し、人との交流をはかり馴染みの人につながる支援をしていきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の声の掛け合いの場面作りをし、利用者と共に家事やレクリエーションを実施し、仲間意識もできている。	○	利用者同士の関わり合いに、職員はつなぎとなりよりよい関係を築けるよう支援していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約が終了しても、気軽に相談に応じるので何時でも来て頂きたいことをお伝えしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で利用者の思いや暮らし方の希望、意向に添えるように職員同士が連携をとり、ケアプランに活かすようにしている。	○	本人の思いや過去を理解し、大切な物を守るよう努めたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	職員は、出来る限り生活歴や馴染みの暮らし方の情報を家族や本人から得ている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日常生活での利用者の現状や変化策を職員同士で把握し、カンファレンスやユニット会議で情報交換をして、より良い環境作りに努めている。	○	一人ひとりの精神的な面と身体的能力を把握し、常に記録していく。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご家族が面会に来た時に時間を頂き、本人と家族の意見を聞き作成している。	○	一人ひとりの知り得た情報を全職員が話し合い、より良い方向性を導きだす。利用者担当制度を導入し、アセスメント、ニーズの抽出、モニタリングを行う。現場からの意見をケアマネがプランに反映させ、連動させている。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	要介護2以上上がる、入院があった時等、新たに計画を作成している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人の日々の様子などを、日誌や申し送りなどに記録して情報を共有している。家族の希望があれば記録をみて、介護計画における意見交換に活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状況に応じて、通院や送迎等を必要な支援を実施している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティアにはマジックショーの人が来て、利用者、職員で参加している。研修などで救命訓練を指導して頂き、緊急時における消防、警察などの機関と連携を図っている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現在の制度上で左記の内容は行っていない。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	必要性があれば地域包括支援センターと協働していきたい。現在までは実例は無い。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約の時は、家族と相談し前からかかりつけがあって希望される場合は優先して受診することを支援している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症に詳しい医師と関係を築いていない。	○	今後、取り組んでいきたい課題である。
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護師を配置しているが現在産休中である。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	利用者の入院時は職員が頻繁に訪問し家族と病院関係者と相談しながら、早期に退院できるようにしている。退院後もリハビリを日々の生活の中で行えるように心がけている。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い時期からの話し合いの場を設けておらず方針の共有が図れていない。	○	早い段階から関係者と話し合っ適切にケアが、できるように対応し方針の共有を図っていきたい。
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度、終末期の利用者がいないため取り組んでいない。	○	職員全体でターミナルケアの勉強会を実施し、一日でも長くより良く暮らすために関係者間で協力し、支援していききたい。
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	移り住むことのダメージを最小限にくいとめる対応として話し合いの場を設け、馴染みのある物等を持ち込んでいただくようお願いしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉づかいや態度には充分注意し人権の尊重に努めている。入職時に秘密保持に関する契約書を職員から提出されている。	○ 一人ひとりの誇りやプライバシーを理解し、その人の尊厳を守るべく、声かけや行動に細心の注意を払う。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者との日々の会話や表情や行動の観察から心掛けている。	○ 選択自由の確保の為、幅広い受け入れが出来るよう、常に努力していきたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	話しを聞く所から始まり、その日のおおまかな説明をし、その中からより良い方向を選び利用者の求める大切な部分を支援している。	○ 個々のペースの違いを気にさせず、全体の共存を目指す。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	家族より、馴染みの店を聞いたり、利用者一人ひとりの希望を聞き入れ身だしなみやおしゃれができるように努めている。	○ 意思を伝えられない方も、過去やなじみのある事に気づき方向性を決めていく。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員と一緒に食事の準備や片付けをし、昔の話しをしながら楽しく毎日一緒にしている。	○ 個々の能力を最大限に活用し、仕事を分担して行う。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人の希望を優先し、自分の好みの物を選んでいる。外出の時は10円まんじゅうや呑龍様の焼きまんじゅうを購入し、皆で楽しんで食している。タバコを玄関先で吸っている方もいる。	○ 本人や家族より好物を聞き、皆様が満足できる物を提供できるように努める。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄パターンを申し送りに記入しトイレ誘導の時間や利用者一人ひとりに合わせた方法を取る様に支援している。また、職員が記録により把握し、オムツの中の排泄だけじゃなく、トイレで自力排便ができるよう支援している。	○	入院をするとオムツにされてしまうが、段階を踏み外していく方法を考える。オムツの負担金の軽減をはかる為、無駄な利用を無くし出来る限りトイレでの排泄を促す。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の体調を考え、入りたいと希望があれば入浴日以外でも入浴できるようにしている。	○	時間も朝、昼、晩と利用者の希望に合わせて検討していきたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	夜間は良眠できるように、日中は運動したり散歩に出掛けたりしている。	○	人工透析者の体調の変化を理解し、より良い休息が出来る様に支援する。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の出来る事、欠落した能力を理解し個々にあった仕事を見つけ、出来たら褒める向上心を持ち、視野を広げてもらう。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理の能力のある人には所持して頂いて、食べたい物や飲みたい物、生活用品を買ったりしている。管理の出来ない人には必要な物を家族と相談している。	○	有意義なお金の使い方を導く支援を行う。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入浴日以外はドライブや散歩に出掛けている。利用者に今日はどこに行きたいですか？と声をかけ、意見が出た時は希望に応じて支援している。	○	利用者の求める場所、季節を感じる事のできる場所、地域の人と交流のできる場所、その状況に応じて対応できる場所の確保。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	年に一度の家族交流。個別では家族対応の定期受診後に外食や散髪に出かけたり、皆と一緒に買い物、カラオケ、いきいきサロンに参加している。車椅子の方にも対応できる介護車でドライブに出かけている。	○	同系列の施設にてのカラオケ大会や広いお風呂の温泉等の一日を通しての外出。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人、自ら連絡を取りたいと希望があれば対応している。	○	年賀はがきの作成。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族、知人、友人等が面会に来た時は明るく出迎えてお茶などを提供し本人の居室でゆっくり過ごして頂けるようにしている。写真を撮って、思い出づくりや、家族に来てもらえるような環境を作っている。	○	外出が多い為、すれ違いにならないように連絡を取り合う。また、訪問者、利用者共に喜んで頂く為に、利用者らしい雰囲気を出しお出迎えをする。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行う必要がなく、おこなっていない。	○	研修や勉強会に参加し、職員の知識、スキルアップを目指す。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関・居室・風呂場など、鍵をかけないようにしている。	○	利用者が外に出る危険性を理解し、地域住民の理解を求め、協力をして頂ける関係を築いていく。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	居室で過ごされている時でも30分後などに利用者の様子を伺うように努力している。モニタリングでリスクの高い利用者を把握している。	○	利用者の行動を把握する事により、本人に気付かれぬように、プライバシーに配慮し安全を提供する。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者の状態にあわせて対応している。	○	日々の変化より、危険に対する知識を使い、臨機応変に対応していく。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故の再発防止対策にむけて職員間の話し合いを会議にて取り組んでいる。	○	事故防止の為、事前策を統一していく。職員間の危機管理能力を統一し、色々な方向からの原因追求していく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	AEDが設置されている。救命救急講習に参加している。提携、系列病院のMEにより、救命救急講習を行う予定がある。	○	マニュアルの確認。職員間の一律な対応。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地震や火災を知らせる火災報知機、消火器が廊下に、事務所には火災受信機、消火器が設置されている。異常があれば、ボタンひとつでセコムが駆けつけられる装置が事務所にある。	○	瞬時の判断力を身につけることにより、利用者の安全を守る。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	起こりえるリスクを家族と相談し、状況の変化に応じて家族に説明している。	○	一人ひとりにおける、全てのリスクを管理し共有する事により事前に予防できる。色々な可能性を考え、限りなくゼロに近づける為の事前策を家族と共有する。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	一人ひとりの体調の変化や異変の早期発見に努め、情報を共有し対応に結び付ける支援をしている。	○	持病の内服薬を把握し、過去数日を振り返り変化を探す。必要に応じて医療との連携を図る。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診ノートや薬関係のファイルを活用し、職員がいつでも見ることができるようになっている。	○	服薬の変更時には、細心の注意をはらい経過を記録する。薬の副作用を理解することにより、リスクの軽減をはかる。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	お腹のマッサージや散歩、手足の運動を行っている。水分管理、坐薬や下剤を使用している。	○	食事により体内環境を変化させる。センナ茶、乳製品の使用等の水分摂取。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後口腔ケアを行っている。必要あれば、歯科受診もしている。	○	口腔ケアの必要性、理解、それに伴う生命維持。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりに合わせて、食べやすい大きさや量を考え出している。食事の時間と10時と15時に水分補給をして頂き、それ以外は本人の希望に応じて摂取して頂いている。	○	食事をする為の、環境作り。体重の増減、定期受診時の結果に基づく栄養バランス管理栄養士による献立の確認？
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザの予防接種を受けて頂き、外出後は手洗いうがいをして頂くように心がけている。また、マニュアルを作成し職員が把握している。	○	ノロウイルス対応とし、時期によりペーパータオルを使用している。感染症に対する知識を集め共有することにより早期発見に務める。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎日使用するまな板と包丁は、熱湯消毒をし利用者が使用するおしぼりタオルなどは、漂白剤で消毒している。夏場は傷みやすい食材はその日に買い出しするように心がけている。	○	食の安全性の再確認。消毒機による衛生管理。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関に施錠をしていない為、自由に出入り出来るようにしている。インターホーン、センサーを設置している為、利用者の把握をしている。	○	隣組、近隣の子供達が気軽に遊びに来れる環境作り。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の家族から頂いた花をリビングのテーブルに飾らせて頂いたり、外出した時に撮った写真などを飾ったりしている。床に食べこぼしがない様毎食後床掃除をしている。	○	消毒機により、共用空間の衛生管理、トイレの消臭効果。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関やリビングに椅子を設置しているため、好きな時に座ることができるようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人が使い慣れたダンスや家族の写真、本人の作品(塗り絵など)が飾られている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	時期により利用者の居室に、加湿器を置いて頂き、昼間は居室の窓を開けさせて頂き換気をしている。ジェットパーフェクター(除菌・殺虫・消毒・消臭・加臭)を設置している。	○	トイレの汚物は個別の袋に入れ封をしまとめて出す。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの身体機能に合わせて、歩行器や手すりを使用している。	○	お風呂場の滑り止めやステップの使用。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	手作りカレンダーを作り、利用者が月日が分かるように見やすい場所に設置している。各居室に名札、目印を設置している。	○	居室の入り口にハンカチやテープなどを使い目印を作る。職員が環境の一部となりケアする。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	畑に野菜を植え、収穫時期には利用者と一緒に収穫している。		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)